

氏名	坂 口 幸 吉
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1685 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和61年 9 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	円錐切除後の残存子宮における病巣遺残の判定について
論 文 審 査 委 員	教授 赤木忠厚 教授 粟井通泰 教授 折田薫三

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

子宮頸部初期癌性病変を有し円錐切除後、子宮を摘出した77例の円錐切除組織標本と摘出子宮標本を検討し、円錐切除後の残存子宮における病巣遺残判定の組織学的基準を設けることを試みた。検討項目は、切除片の大きさ、病巣を有するブロック数、切除断端から病巣までの距離、病巣の頸管縦軸方向の長さ、表層基底膜からの深さ、腺腔侵襲の有無、病変進行度等である。これらの検討により、円錐切除標本により残存子宮における病巣遺残を(-)と判定する為の組織学的な基準は、病変進行度が1a以下である事、頸管縦軸方向の病変の長さが8.5 mm以内である事、円切断端に病変を認めず、円切断端から3.1 mm以内に腺腔侵襲を伴わない事。ただし円切断端から病巣までの距離が3.1 mmをこえる症例では、腺腔侵襲の有無を問わないという結論を得た。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は子宮頸部初期癌性病変に対する円錐切除後の残存子宮における病巣遺残判定について研究したものであるが、従来十分確立されていなかった組織学的判定基準を確立したものであるとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。